知っておきたい病気・医療

【佐藤典宏先生監修】がんの自由診療とは?

～がん治療の選択肢について知っておこう～

3種類のがん医療の違いを知る

がんは誰でもなりうる身近な病気の一つです。自分ががんになったらどのような治療法があるのかを知っておくことは、いざという時に迫られる治療の選択だけでなく費用を準備するうえでも大切です。「標準治療」「先進医療」「自由診療」というがんの３つの医療について、帝京大学 福岡医療技術学部 医療技術学科教授の佐藤典宏氏が解説します

Adviser 帝京大学 福岡医療技術学部 医療技術学科教授 **佐藤典宏さん**

医師（外科医）。医学博士。1993年、九州大学医学部卒業。米国ジョンズホプキンス大学医学部留学、産業医科大学 第1外科講師などを経て、2024年より現職。YouTube「がん情報チャンネル」や、ブログなどでがんに関する情報発信をしている他、『がん専門医が伝えたい がん患者が自分らしく生きるためのセルフケア大全』（CEメディアハウス）など著書多数。オフィシャルウェブサイトhttps://satonorihiro.xyz/

現在がん治療は、費用面の違いによって大きく3種類あります。

保険適用となる「標準治療」、一部が保険適用となる「先進医療」、全額自己負担となる「自由診療」です。このうち最も推奨されている医療が「標準治療」です。

「標準」とは、世界中で行われた臨床試験の結果から有効性と安全性が確認された「最良」の治療法です。

一方、現時点で健康保険が適用されていない医療に「先進医療」と「自由診療」があります。

先進医療は「厚生労働大臣が定める高度な医療技術を用いた療養」を指し、保険給付の対象とすべき治療かどうか評価や検証の段階にある治療法のことです。先進医療を受ける際の治療費（技術料）は全額自己負担となります。ただし、標準治療と共通する診察や検査、投薬、注射、入院などは保険給付の対象になります。

自由診療では、診察や検査から投薬など治療にかかる費用はすべて自己負担になります。中には「最新治療」と紹介される治療法もありますが、前述の有効性や安全性が確認されている標準治療や先進医療とは異なり、科学的根拠（エビデンス）が十分ではない治療法がある点に注意が必要です。

■3種類のがん医療の特徴

	標準治療	先進医療	自由診療
定義	多くの臨床試験により有効性と安全性が確認された「最良」の治療	厚生労働大臣が認めた高度な医療技術を用いた療養	標準治療、先進医療に該当しない、保険外診療
科学的根拠	確立されている	評価・検証中	確立されていない
費用	健康保険適用	技術料の部分は全額自己負担（一部保険適用になる場合もある）	全額自己負担
混合診療の可否	先進医療（保険適用外）と標準治療（保険適用）を同時に行う「混合診療」が可能		標準治療と自由診療の「混合診療」は禁止

標準治療の新たな選択肢「免疫療法」

がん治療には、自分の免疫システム（体の防御機能）を利用してがん細胞を攻撃する免疫療法があります。免疫療法には「標準治療」、「先進医療」、「自由診療」がありますが、標準治療として実施されている免疫療法の一つが「免疫チェックポイント阻害薬」を用いた治療です。

私たちの体にある免疫細胞（T細胞）には、が

ん細胞を攻撃する働きがあります。一方で、がん細胞は免疫細胞（T細胞）の働きにブレーキをかけ、攻撃を回避しようとします。このブレーキをはずし、再びがん細胞を攻撃できるよう導くのが、免疫チェックポイント阻害薬です。

ただし多くの場合、「根治切除不能な進行・再発」がんに対し従来の化学療法（抗がん剤）が効かない、あるいは増悪した後の二次治療以降の選択肢となります。まずは、よりエビデンスが確立されている標準治療が最初の段階の治療となります。

免疫チェックポイント阻害薬が保険適用になるまでは、抗がん剤が効かない、あるいは増悪した場合、それ以上の治療はあきらめざるを得なかったケースも少なくありませんでした。標準治療の一環として選択肢が増えることは、がん治療における大きな希望といえます。

先進医療もまた、標準治療を優先して行ったうえでの選択肢の一つになります。現在、がん治療の先進医療の中心となっているのが、放射線治療の一種である粒子線治療（重粒子線治療、陽子線治療）です。従来のX線とは異なり、炭素（重粒子）や水素（陽子）の原子核を加速して、がんにピンポイントで照射します。標準治療の放射線療法に比べて照射回数が少なく、体への負担が少ないのが特徴です。

一方で、巨大な加速器や照射装置を用いるため、大規模な設備が必要なことから、国内で粒子線治療を受けられる施設は限られています。また、いずれも治療の部分（技術料）は自己負担となり、金額は300万円前後と高額です。

ただし、手術による根治的な治療が困難とされた、一部のがんについては保険適用となります。

保険適用の免疫チェックポイント阻害薬や粒子線治療は増えているものの、治療が可能ながんはまだ限られています。大規模な臨床試験で一部のがんについては効果と安全性が確認された治療法でも、他のがんでは確認できないというケースがあるためです。結果として、免疫チェックポイント阻害薬や先進医療の中に、保険適用のものと全額自己負担のものが混在しているのが現状です。

自由診療（全額自己負担）での治療を検討する場合、がんの自由診療は種類が多く標準治療に比べて選択の幅が広い一方で、科学的根拠（エビデンス）が乏しく有効性が確認されていない治療もあります。また、治療内容によっては費用が数百万～数千万円程度かかる場合もあり、全般的に極めて高額になる傾向があります。とはいえ、標準治療や先進医療が継続不可能と判断されたがん患者にとっては”最後の砦”としての役割を担う面もあります。

自由診療を受ける際は信頼できる診療を行う医療機関を選択したうえで、次のことを必ず確認しましょう。

- 治療のゴール （自分がどのくらいの状態を目指すのか）
- ゴールまでにかかる費用と期間（回数）

できれば書面に沿ってこれらを説明してもらうのがベストです。逆にいうと、口頭で曖昧な説明しかしてもらえない場合は「信用に値しない」と判断する目安になります。

自分が納得できるまで十分に説明を受けたうえで、治療を始めるかどうか決めることが大切です。また、がん治療において最も重要なのは主治医とのコミュニケーションです。次のようなことを何度でも納得するまでよく話し合いましょう。

- 自分のがんはどのようなものなのか
- どんな治療法があるのか
- 主治医の考える最適な治療法は何か
- その治療法が効かなかった場合はどうするのか

治療について主治医と話し合った結果、納得できなければ（あるいは確認のために）セカンドオピニオンを求めるのも方法の一つです。

なお、乳がん、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん・卵巣がんなどについては、エビデンスに基づく検査や治療法などを専門の学会などがまとめて提示している「患者さんのためのガイドライン」や「患者さんのためのガイドブック」などを参考にするのもよいでしょう。

がんとその治療について正しい知識を身につけると共に、定期的ながん検診で早期発見・早期治療につなげることも大切です。

詳しくはwebもご覧ください　https://www.karadacare-navi.com/medical/62/